

令和2年2月28日

上島町教育委員会  
教育長 高橋 典子 様

上島町立弓削中学校  
校長 田窪 鉄哉 印

令和元年度 学校関係者評価報告書

- 1 開催日時 令和2年1月30日（木）19:00～20:00
- 2 参加者 学校運営協議会会員及び小中学校教務主任 19名
- 3 協議内容 評価結果・改善方策等、学校側の説明を聞いてからの意見交換・感想

（A委員より）

- 評価項目5については、保護者はD評価、生徒はC評価と低く、教職員はA評価と高い評価となっているが、教員は家庭学習を充実させるための手立てを評価しているのに対して、生徒、保護者は家庭学習の時間を評価の対象としている。そのため、結果に差が生じているのではないか。評価の観点を統一した方が良いのではないか。項目4については、保護者の評価はD評価で、生徒の評価はA評価となっているが、保護者は参観日等のある一面だけを評価していると思われる。生徒が高い評価をしているので、自信を持って授業を行っていいのではないだろうか。項目3については、生徒と教師の考える基礎・基本と保護者の考えている基礎・基本の概念が違うのではないか。基礎・基本とはどのようなものなのかを具体的に親に知らせることも必要なのではないか。

（B委員より）

- 4の項目で保護者のD評価が気になる。保護者はテストの結果の平均点が目に入るものである。業者の作成するものと教師が作成するものとの違いもあるだろうが、教師が作成するテストにおいて、平均点が極端に低くなるのはどうなのか。テストの平均点を自分の授業の評価として受け止めてほしい。平均点が高すぎるのも良くないと思うが、テストの結果を教師の反省材料として生かして欲しい。

（C委員より）

- 自分が教員時代には業者の模擬テストを受けさせて力がついているかどうかを判断した。今は標準学力テストで判断する事ができる。その結果がすべてではないが、参考にすることはできないのではないか。その結果を真摯に受け止めて、何がだめであったのかを考え、何かよりどころを見つけ、それに対して保護者に説明をすることが大事である。

(D委員より)

- 読書の習慣があまりついていないという反省が出ているが、大学の共通テストが今後文章問題を読んで答えを解いていくという傾向に変わってきている。読む力がないと問題を解くことができないということになってくるので、家庭と連携しながら読む習慣をつけさせるべきである。あいさつが不十分であるということについては、返事とあいさつはコミュニケーションの第一歩である。社会に出てからはコミュニケーション能力が大事になってくるので、小さい頃からしっかりとやってほしい。地域であいさつを返さないこともあるというが、あいさつを返してくれるのは地域の一人として嬉しい面もあるが、不審者対策を考えるとあいさつに対してすべて返すのがいいのかどうかも考えるところである。

(E委員より)

- 普段から小中学生はよくあいさつをしてくれており、中学生の自転車の乗り方も大変よく、普段からの指導がよく行き届いているのではないかと。

(F委員より)

- 学校生活を送れなくなってしまう子どもの一つの要因としてスマホやゲームがあげられる。スマホやゲームについての評価項目をつくってみてもいいのではないかと。

(G委員より)

- スマホやゲームのやり過ぎで、寝不足になってしまうことが基本的な生活習慣の乱れにつながっていくのではないかと。今後の大きな問題となってくると思われるので、調査をしながらしっかりと指導をしていくことが必要である。

(H委員より)

- 不登校に対しては親の意向が強いように思える。昔と違って今は「休みたければ休んでいい。」という考えをもっていたり、行事によって出欠を決めているような傾向があるので学校の対応も難しいのではないかと。

(I委員より)

- 20年前に教員を退職したが、不登校に出会ったことはなかった。登校をいやがる子どもはいたが、連続で休むことはなかった。今の保護者の考え方が変わってきたのか。学校に行くことでこれからの生き方を見つけてほしい。